

病 因 と 病 態 < C 4 >

オーガナイザー

病理学講座 講師 中 西 雅 子

教 員 名

病理学講座

人体病理学

講 師 及 川 恒 輔

教 授 村 田 晋 一

講 師 中 西 雅 子

講 師 小 島 史 好

助 教 岩 橋 吉 史

助 教 高 橋 祐 一

助 教 岩 元 竜 太

I 一般学習目標

疾患の正しい診断と治療のために、疾患の成因（Etiology）・発生機序（Pathogenesis）を理解し、これに基づいて個体に現れる変化から病態生理（機能の異常）と病変（形態の異常）の関連を知り、病気について正しい診断を下す基礎的病理学的観察法、および診断方法を身につける。

II 個別学習目標

1. 病理学を学ぶ意義について述べるができる。
2. 形態学的な変化を表現する言葉としての病理学的用語を定義に従って用いることができる。
3. 各種疾病の成り立ち・病因について、形態学的変化と関連づけて述べるができる。
4. 疾病の場としての人体各臓器の基本構造とその特徴を、疾患と関連付けて説明できる。
5. 疾患の特色より症状、症候との関連が説明できる。
6. 病気の診断に至る過程を組み立てることができる。
7. 病気の自然経過と治療による修飾が判別できる。
8. 病理総論的、臓器横断的な疾患の分類法について説明できる。
9. それぞれの臓器における代表的疾患を挙げるができる。
10. 疾患の病理学的特色とその成り立ちを説明できる。
11. 各論的疾患分類について説明できる。
12. 臨床医学における病理診断の役割と位置付けを説明できる。
13. 病理診断業務の仕事の流れを説明できる。
14. 病理学における解析法、検索法について列挙できる。
15. 迅速診断、永久標本による診断、特殊染色、電顕、免疫組織化学等の病理学的検索方法の違いと特徴を説明できる。
16. 病理解剖における注意点と実際の方法を説明できる。
17. 固定法の種類とその原理、実際の使用法、使用上の注意点について説明できる。
18. 顕微鏡を使用して、組織標本の観察ができる。
19. 組織標本を病因と対比し、病変の成り立ちを説明できる。
20. 代表的な分子病理学的方法について説明できる。
21. 病理学分野の学術図書より学術情報を得、その知識を整理することができる。
22. 病変の組織細胞学的特色について述べることができる。
23. 細胞の形態学的変化、特色とその機能の変化について述べることができる。

III 教育内容

講義日程表を参照

IV 学習および教育方法

学習：病理学の内容は広範に渡り、講義や実習で足りない部分は、下記の推薦図書等（「標準病理学 第6版」および「カラーアトラス 病理組織の見方と鑑別診断 第7版」）を用いて自ら知識を深める努力が必要不可欠である。

講義：講義はスライドや配布資料等を併用して行う。必要に応じてレポートや小テストを課す。

実習：各人がバーチャルスライドを用いて組織所見の観察やスケッチを行い、レポートを作成する。実習後にレポートを提出する。必要に応じて小テストを課す。

V 評価の方法

1. 講義：総論（V期）および各論（VI期）の定期試験において、どちらも60%以上の得点を必要とする。出席が講義数の3分の2に満たない学生は受験資格を与えない。試験は、講義・実習の内容に加えて、「標準病理学第6版」や「カラーアトラス 病理組織の見方と鑑別診断 第7版」に記載されている中で、重要な病理学的知識について問う。試験形式は、記述問題あるいは選択問題の形式で行う。（担当教員により異なる。）
2. 実習：実習への取り組み、ならびにレポートを評価の対象とする。正当な理由なく欠席した場合や、指定された期日までにレポートを提出しない場合は不合格とする。
3. 再試験：総論、各論ともに再試験は1回のみ実施するが、その可否発表は行わない。
4. 最終成績は、定期試験の結果ならびに実習評価により判定する。

VI 推薦する参考書

- | | |
|---------------------------------------|------------------------|
| ○ 標準病理学 第6版 | 医学書院 |
| ○ カラーアトラス 病理組織の見方と鑑別診断 第7版 | 医歯薬出版 |
| ○ Robbins Pathologic Basis of Disease | W. B. Saunders Company |
| ○ 解明病理学 第3版 | 医歯薬出版 |
| ○ Newエッセンシャル病理学 | 医歯薬出版 |
| ○ 組織病理アトラス 第6版 | 文光堂 |
| ○ ロビンス&コトラン病理学アトラス | エルゼビア・ジャパン |

講義日程表

No.	月日	曜日	時限	項 目	担 当 科	担当
1	2月15日	月	3	オリエンテーション	人体病理学	村田
2	2月18日	木	1~2	総論：細胞障害	病理学	及川
3	2月18日	木	3	病理学実習 ①	病理学	中西
4	3月1日	月	3	総論：細胞障害	病理学	及川
5	3月4日	木	1~2	総論：炎症	病理学	中西
6	3月4日	木	3	病理学実習 ②	病理学	中西
7	3月8日	月	3	総論：免疫	人体病理学	岩橋
8	3月11日	木	1~2	総論：炎症	病理学	中西
9	3月11日	木	3	病理学実習 ③	病理学	中西
10	4月5日	月	3	総論：免疫	人体病理学	岩橋
11	4月8日	木	1~2	総論：感染症	病理学	中西
12	4月8日	木	3	病理学実習 ④	病理学	中西
13	4月12日	月	3	総論：循環障害	人体病理学	小島
14	4月15日	木	1~2	総論：循環障害	人体病理学	小島
15	4月15日	木	3	病理学実習 ⑤	病理学	中西
16	4月19日	月	3	総論：腫瘍	人体病理学	村田
17	4月22日	木	1~2	総論：腫瘍	人体病理学	村田
18	4月22日	木	3	病理学実習 ⑥	病理学	中西
19	4月26日	月	3	総論：腫瘍	人体病理学	村田
20	5月6日	木	1~2	総論：腫瘍	人体病理学	村田
21	5月6日	木	3	病理学実習 ⑦	病理学	中西
22	5月10日	月	3	総論：代謝障害	病理学	及川
23	5月13日	木	1~2	総論：遺伝性疾患と先天異常	病理学	中西
24	5月13日	木	3	病理学実習 ⑧	病理学	中西
25	6月3日	木	1~3	各論：循環器	人体病理学	高橋

26	6月10日	木	1~3	各論：消化管	病理学	未定
27	6月17日	木	1~3	各論：消化管	病理学	未定
28	6月24日	木	1~3	各論：血液・造血器・リンパ節	人体病理学	岩元
29	10月4日	月	1~2	各論：脳・神経	病理学	未定
30	10月7日	木	1~3	各論：呼吸器	病理学	未定
31	10月11日	月	1~3	各論：呼吸器	病理学	未定
32	10月14日	木	1~3	各論：肝・胆・膵	病理学	未定
33	10月18日	月	1~3	各論：腎臓	病理学	未定
34	10月21日	木	1~3	各論：泌尿器・男性生殖器	病理学	未定
35	10月25日	月	1~3	各論：内分泌	病理学	未定
36	10月28日	木	1~3	各論：乳腺・女性生殖器	病理学	未定